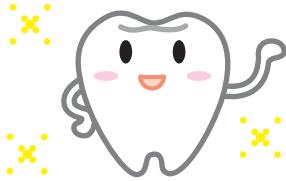


はやした歯科新聞



<http://www.hayashita.jp/>



口腔機能低下症 検査と評価のポイント

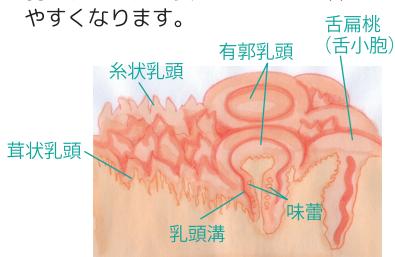


口腔不潔 —— 下苔の付着程度で口腔衛生状態を評価する

舌は味覚を感じるだけでなく、会話、咀嚼、嚥下など多くの働きをします。舌は動きが活発なので、健康なら舌苔が増えることはありません。しかし、動きが低下すると、舌乳頭の隙間に細菌や汚れが溜まって舌苔が増殖します。舌苔の増殖は、口腔乾燥や舌口唇運動機能低下とも関係してくるので、視診による Tongue oating Index(TCI) を用いて舌苔の付着程度で口腔不潔を評価します。

舌の表面構造

- 1 舌は横紋筋という筋肉のかたまりで、その表面には舌乳頭の突起で覆われています。突起の隙間に細菌、剥がれた上皮、食べかすなどが溜まりやすくなります。



TCIによる検査

- 2 舌苔スコアの記録
下表面を9分割して各エリアの舌苔付着程度を3段階で評価します。
●舌苔スコアの基準
スコア0：舌苔は認められない
スコア1：舌乳頭が認識可能な薄い舌苔
スコア2：舌乳頭が認識不可能な厚い舌苔
TCI=スコアの合計(0~18点) / 18 × 100 = %

咬合力低下

感圧シートによる検査

- 4 感圧シート（デンタルプレスケールII／ジージー）を用いて咬頭嵌合位で3秒間クレンチング時の歯列全体の咬合力を計測。その値が500N未満を咬合力低下とします。残存歯数による評価では、残存歯数が残根と動搖度3を除いて20本未満を咬合力低下とします。

舌・口唇運動機能低下

- 5 舌や唇の動きは、構音速度を測定するオーラルディアドコキネシスで評価。/pa/、/ta/、/ka/それぞれを連続して発音し、各音節の5秒間での発音回数で計測して、/pa/、/ta/、/ka/いずれかの1秒当たりの発音回数6回未満を舌・口唇運動機能低下とします。

低舌圧

舌圧測定器による検査

- 6 舌圧は舌圧測定器(JMS舌圧測定器：ジェイ・エム・エス／ジーシー)に繋げた舌圧プローブを舌と口蓋の間で最大の力で数秒間押し潰してもらって最大舌圧を計測。舌圧が30kPa未満を低舌圧とします。



咀嚼機能低下

グルコセンサーによる検査

- 7 咀嚼機能はグルコース含有グミゼリー咀嚼時のグルコース容出量を測定する咀嚼能力検査、または咀嚼能率スコア表により評価します。咀嚼能力検査は、2gのグミゼリー（グルコラム／ジーシー）を20秒間咀嚼した後、10mlの水を含んでグミと水を濾過用メッシュ内に吐き出し、メッシュを通過した溶液中のグルコース容出量を咀嚼能力検査システム（グルコセンサーGSII／ジーシー）で測定。濃度100mg/dl未満を咀嚼機能低下とします。

咀嚼能率スコア法による検査

- 8 咀嚼能率スコア表はグミゼリー（咀嚼能率検査用グミゼリー／UHA味覚糖・アズワン）を30回咀嚼後、粉碎度を視覚資料と照合し、「スコア0」から「スコア9」まで評価。スコア0, 1, 2の場合を咀嚼機能低下とします。



謹賀新年

嚥下機能低下

EAT-10

- 9 嚥下機能は、嚥下スクリーニング検査(EAT-10)で評価。合計点数が3点以上を嚥下機能低下とします。

一般歯科、予防歯科、口腔外科、インプラント、審美歯科、ホワイトニング

はやした歯科医院

〒854-0043 長崎県諫早市立石町22番8号

TEL & FAX: 0957-32-8181

